

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200316		
法人名	有限会社 祥		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字堤1907番地1		
自己評価作成日	平成25年1月9日	評価結果市町村受理日	平成25年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成25年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、利用者と職員が楽しく日常生活が送れるよう、職員が利用者の思いに沿ったケアに努められるように考えケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が「明るく、楽しく、ゆったりと」過ごしていただけるように、スタッフも明るく楽しく、入居者の思いやペースに合わせたケアができるように日々努力されている。庭にさくらんぼをはじめ様々な果物を植え、成長や収穫を楽しみ、おやつに取り入れて、季節感を楽しまれている。入居者一人ひとりの思いをくみとり、それぞれの写真や思いを載せた通信を毎月作成して、家族に送付し、入居者と家族の絆が強められるように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は日常的に理念に基づく運営方針を職員に話している。職員も理念の意義を理解し業務に励んでいる。目につきやすい場所に理念を掲示している。	ホール、玄関、事務所など目がつく場所に理念が掲示され、またカンファレンスや日頃の会話の中で話をする事で、理念を意識したケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には積極的に挨拶をしている。子供110番等を取り入れ少しでも近所の方との交流ができるようにしている。施設内にゴミ置き場を設置し自然と地域の方と交流できるようにしている。	散歩の時に近所の方と立ち話をしたり、野菜や果物をもらったりしている。道路に面した場所にゴミ置き場を設置し、地域の人に開放して、事業所を意識してもらえるように工夫されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会、民生委員の方達と話し合い地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか議論している。グループホームのイベントの参加の働きかけ、老人会への参加等検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、老人会の会長等、いろんな意見、アドバイスをお伺いして、出来ることは実行している。	家族に案内状等で運営推進会議を知らせて、家族の参加も少しずつ増えている。運営推進会議で地域の情報の提供をうけ、行事に参加できないか検討したり、健康診断などに役立だてている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に役場との連絡を密にし相談等している。鳥栖広域連合にも解らない事がある時は積極的に聞いて対応を行っている。	不明な点などは、保険者の担当者に現状をふまえながら、随時連絡して、相談や確認を行っている。役場には福祉のサービス等問い合わせを利用して、協力関係を築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がないように介護に取り組んでいる。職員も身体拘束をしないように理解している。身体拘束が具体的にどんな事なのかカンファレンス等で話し合いを行っている。	カンファレンスの中で身体拘束について話し、拘束しない為のケアの方法を検討する事で、現在拘束は行っていない。入居者の様子をスタッフが常に気配りし、外に出ようとする場合は付き添い、鍵をかけないケアを実行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、勉強会で認識を深めている。自分達が言われたりされたりすると嫌な事は絶対にしないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業(安心サポート)成年後見制度を理解し、(安心サポート)利用されている利用者の方に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき十分な説明を行っている。利用者、家族の解らない事等は尋ね、説明し理解・納得を得られるようにしている。改定時には家族会等を開催し、利用者、ご家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の現状を理解して頂けるよう、管理者、スタッフは家族の方へおたっしや通信等を利用して状況を報告している。苦情、不満、取り入れて欲しい事等ないかご家族の方の意見を常にお伺いできるようにしている。	家族の面会時などは気軽に話せる雰囲気を作り、要望等は職員全員で共有し、ケアに生かせるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のカンファレンスにより意見交換し、スタッフの声に耳を傾け反映できるようにしている。	月に一度の定例のカンファレンスで意見を聞く機会を設け、出された意見が実現できるように活発に議論している。また日頃から職員は代表や管理者に気軽に相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力により給与等に反映されるようにしている。職員個々に居室担当者の役割を与える事で意識の向上を持ち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し、参加を促している。月1度のカンファレンス時に身体拘束、接遇等の話し合いを行っている。入社時には本人の能力によるが最低でも2週間程度の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへ訪問等し、交流が深められるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のお話を傾聴し、利用者様がどのような生活を希望されているか理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にはよくご家族の思いを傾聴し、不安な事、求めている事を理解するよう努めている。また入居後も日頃どのような様な支援を求められているか伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を良く聴き必要と思われるサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように明るく、楽しく、ゆったりとを大切に、利用者の方と共に楽しみ、喜怒哀楽も一緒に共有できるような関係を築けるようスタッフは協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が出来る事を施設と一緒に考えて本人を支えるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様とスタッフは馴染みの関係を築き、ゆっくり、安心できるよう心がけてサービスの提供をしている。	何時でも面会できるように面会時間の制限はしていない。知人や家族が来た時に、次も面会に来やすいように本人の状況を伝えている。毎月、入居者それぞれの通信を作成して家族に送付し、家族に本人の気持ちや状況が伝わるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の出来る範囲内で役割、仕事をして頂く事により、自然に利用者同士の関係がよくなるよう支援している。時には利用者同士の助け合いの場面もみられるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了された家族の方にも定期的に手紙等を出し、その後の様子が解る様に支援している。いつでも遊びに来て下さるようご家族の方にもお願いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、ケアプラン作成時に行っている。また困難な場合は自分だったら……と考えるように努めている。家族の方の、利用者様の現状を理解しその方の状態に合わせて支援している。	日頃の様子や会話を支援経過やアセスメント用紙に記録し、本人に毎日の日記を書いてもらい思いや希望がくみとれるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過記録に記録を残し、特変時は別に記入している。利用者様の現状を理解しその方の状態に合わせて支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、その方の行動、状態を観察し、時間、日によって状態が違うのでスタッフは注意し観察し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を基に、職員間で話し合い介護計画を作成している。	ケア計画作成者と担当職員がケアプランの原案を作成し、職員全体で検討して修正し、家族に確認している。日頃の支援経過に、短期目標について簡潔に記録し、モニタリングを行い、次の目標につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に経過記録を記入し、申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・ご家族の要望を取り入れ、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方、役場等の協力が得られるように交流をしている。消防には年に一度の消防訓練に参加してもらい、応急処置の講習も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を第一に考え昔からの主治医の先生に受診して頂いている。週に一度は田尻外科・胃腸科の医師に往診に来て頂き利用者の方との信頼関係も築けている。	入居時にかかりつけ医の希望を確認し、馴染みのかかりつけ医は家族介助で受診されている。提携している医師が週に一度往診されて、体調管理を行われている。急変時などは職員が受診介助を行い、受診の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、提携先の田尻外科・胃腸科の看護師に訪問して頂き、利用者様の健康状態の把握を行って貰っている。看護師、医師にいつでも相談できるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・ご家族の意向を良く聴き早期退院できるよう病院関係者との情報・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関である田尻外科・胃腸科との連携によりターミナルケアが出来るよう準備している。入居契約時に看取りの指針の説明を行い、本人、ご家族に同意を得ている。	看取り指針について入居時に説明し、重度化や終末期に対応できるように準備している。重度化や終末期の状況になった時は、家族と話し合いを行い、ケアの継続や入院等希望に沿って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生や入居者急変時マニュアルを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間帯を想定した避難訓練を定期的実施している。	年2回、消防署や区長立ち会いの元、避難訓練を行っている。災害時は区長がスピーカーで呼びかけるようになっている。スプリンクラー・消火器が設置され、食料や飲料水の備蓄行われている。避難経路が廊下等に見やすく掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の方が理解できるよう、ゆっくり、話しやすい雰囲気言葉掛けを行っている。申し送り時には、名前ではなく居室番号で申し送りをし利用者の方が気にされないように配慮している。	入浴や排せつなどはあからさまに行わないようにタイミングや言葉かけを工夫している。職員は、入居者に落ち着いていただけるように穏やかな口調で話すように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に合わせた説明、自己決定ができるように支援している。言葉があまり出られない方は行動、表情等で察知できるよう観察し、情報交換し話し合いを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の基本的な生活リズムを大切に、支援できるように職員は心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より身だしなみを大切に自分の好みの服、髪型ができるように支援している。職員はおしゃれの大切さを考え、本人の望むおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等、利用者の方の出来る事を把握し、手伝って頂いている。手伝って頂く時も言葉掛けにより疲れていないか、精神的に苦痛をとまなっていないか等、観察しながら職員と共に作業をして頂いている。	野菜の下ごしらえや後片付けなど入居者が出来る事を一緒に行っている。果物を庭に植えて、成長を観察し、一緒に収穫し、おやつに取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握、こまめな水分補給にて健康な生活ができるように支援している。食事が楽しく多く摂取できるよう調理等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨き、うがいをし、入れ歯の方は、毎日義歯の洗浄を実施している。歯科医の協力を得て口腔内の清潔保持を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を毎日行い、排泄のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。	排泄記録票によりパターンを把握し、定時誘導を行っている。また落ち着かない様子など排泄のサインが見られたときも誘導している。失禁時はさりげなく清潔が保てるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の状態を考慮した適度な運動。栄養バランスを考えての食事の提供をしている。歯が無い方には小さく切り分けて食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入浴されたい時間になるべく入浴できるように支援している。失禁時には入浴に対応している。	入浴は一人ずつ行われ、拒否がある方も、タイミングや言葉かけを工夫して入浴支援している。入浴の希望を聞き、朝や夜など希望があれば対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度・寝具の調整をし気持ちよく休息できるよう支援している。週に一度、シーツ汚染時にはシーツ交換をし寝具も清潔を保持している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている処方箋。内容が解らない薬は医師・看護師に尋ねられる体制を整えている。また新しい薬が処方されると資料の配布を行っている。状態観察、副作用による症状の変化等が見られる場合は医師・看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力・好きな事が出来るように趣味等を取り入れ安全に作業できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の歩ける距離、認知力に応じて戸外にでられるよう支援している。利用者の方の安全を確保できるようスタッフは考え介護に従事している。	入居者の状況に合わせて、散歩やバスハイクなどの外出を行っている。外出が難しい場合は日光浴を行っている。本人が個別の場所に外出を希望される場合は家族に伝え、気軽に連れ出せるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方へ理解を得て、お小遣いとして預かっている。一人一人のできる能力に対してお金の管理の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方へ理解を得て、希望に応じている。また電話が繋がらない時、心配される時は安心できるよう言葉掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い時はロールカーテン等で調整をしている。中庭には季節の花を植え自然に季節を感じられるように工夫をしている。	入居者が落ち着いて過ごせるように、西棟・東棟それぞれ違った家具の配置や座席順となっている。入居者の手作りの品や写真が廊下に掲示され、楽しい雰囲気を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を上手く利用し、廊下でも一人になれる場所を作っている。ホールが広い為、利用者同士で思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族の要望を聴き本人が使いなれた物・好みの物を置けるようにしている。本人、ご家族が希望されたら馴染みの家具等持ち込んでもらっている。	馴染みの食器などを食事の時に使われている。入居者が落ち着いて過ごせるように、馴染みの品物の持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフはゆっくり丁寧に利用者の方に解りやすいように言葉掛けを行っている。混乱失敗がないよう行動を観察し、さりげなくフォローするように努めている。		